

熊本県立八代工業高等学校(全日制) 平成27年度学校評価表

1 学校教育目標
「学力の定着」、「規範意識の育成」、「進路保障」、「人間尊重の精神」を基底に置き、校訓「誠実」を核として、知力・体力・人間力を磨き、未来を拓く主体性のある生徒を育成することを旨とし、工業高校としての使命を果たし、地域の信頼と期待に応える学校づくりに努める。 ①教科指導等の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④環境問題をはじめ、公共の精神を養う態度の育成 ⑤部活動等の充実 ⑥地域社会に期待される学校づくりの推進 ⑦特別支援教育の充実

2 本年度の重点目標
①社会に適用する人間力を持った人材育成 ・「当たり前」を当たり前、「凡事徹底」により基本的な生活習慣の確立を図り、社会人基礎力を育成する。 ・いじめを許さず、自他の命を大切に人権教育を推進し、あらゆる場を道徳教育の機会と捉え、人権尊重や規範意識の高揚に努める。情報モラル教育を充実し情報社会における正しい判断や望ましい態度を育て他者への思いやりなど人権を尊重する態度を育成する。 ・キャリア教育を推進し、望ましい勤労観や職業観を育成する。地域社会や企業との連携を図り、体験活動、ボランティア活動等を通じ、社会の一員としての自覚を責任感を育成する。
②確かな学力の向上と進路実現 ・授業の質を高め基礎的・基本的な学力の確かな定着と目標達成に向けた学力の向上を図る。 ・学科の特色を生かした専門教育を展開し、各種コンテストへの挑戦、技能検定、国家資格等、資格取得を奨励し、スペシャリストとなる基礎の確立に努める。(ジュニアマイスターへの積極的挑戦) ・明確な進路目標を早期に立て、進路決定能力を育成するとともに、主体的に自己実現を目指す態度を育てる。 (難易度の高い企業就職、公務員、国公立大学への計画的、徹底指導)
③部活動の積極的推進 ・体力・競技力の向上を目指し、体育・スポーツを積極的に推進する。 ・部活動・生徒会活動をより活発に展開し、たくましい心と体、思いやりの心を育て明るい学校づくりに努め、豊かな人間性や社会性を持った生徒を育てる。 ・健康、安全や仲間を大切にすることを育成するとともに自己管理能力を養う。
④開かれた学校づくり ・HPの充実や学校新聞の発行等広報活動や公開授業に積極的に取り組み、開かれた学校づくりの推進に努める。 ・地域社会や企業、中学校等との連携を図り地域に根ざした教育活動を積極的に推進し、地域住民の期待と負託に応える。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教職員、生徒・保護者等へ説明し、教職員・生徒には90%、保護者には80%以上の認知度をめざす	職員会議、全校集会、PTA総会、学年保護者会、地区懇談会、三者面談、学校新聞等で本年度教育方針等の説明	B	アンケートで本校の教育方針を理解していると答えた保護者は93%生徒は85%、教職員の認知度は99%であった。概ね浸透しているが、生徒の認知を高める取組と周知する機会を増やし、更なる周知徹底を図りたい。
	学校マネジメントの充実・強化(組織的活動の確立)	各部、各科の目標達成に向けたマネジメントを確立	各部・各科における自己の役割認識と組織体の一員としての自覚と使命感を身に付ける	定期的に各部、各科の連絡報告会を開催し、目標達成に向けた進捗状況と今後の対策の確認	B	各科では連絡会を時間割に設定されているため定期的に開催されたが、各分掌部会は学期初めの会議以外は、必要に応じた開催という状況であった。次年度は会議開催に拘らず、組織内の情報共有できる連絡報告法を考えたい。
	教育環境(施設・設備)の充実と積極的な活用	実践的で教育効果があがる教育環境整備 働きやすい環境整備	実習内容の充実と高度化に向けた施設設備を検討する 週1回、身の回りの環境整備を実施	産業社会の施設設備の現状を調査させる。企業での研修の実施 職員室・各管理室の清掃・整理整頓の徹底	B B	校舎内にバリアフリー対策が必要な箇所が見られる。老朽化した設備が見られ、各科に必要な設備は継続的な更新要求を行っていききたい。 職員室の整理整頓は概ね出来ているが、身の回りの整理整頓には個人差が大きい。
	安心・安全・満足を目指す教育活動の徹底と開かれた学校づくり及び広報活動の充実	PTA総会、体育祭、文化祭へのPTA・中学生・地域住民の参加促進	PTA総会出席率90%以上、文化祭には300人以上の来客者数を実現する	教務部、各学科、進路指導部、生徒会等を中心とした広報活動(HPの充実と学校便りの送付等)と積極的マスコミ活用	B	PTA総会については昨年度に比べて出席率は上昇したが目標とする90%には達しなかった。HPについては、ほぼ毎日の更新がなされていた。今年度新たに文化祭でテクノ広場を開催、幼児や保護者等来校者が増加した。
	授業の充実(わかる授業・わかりやすい授業の実施)教職員の授業力向上	生徒の実態把握と理解度の把握 学習意欲を引き出す授業の工夫	基礎的・基本的な学力の向上 家庭学習の習慣化 授業向上のための研究授業の実施(言語活動の充実・参加型授業)	年間授業計画を学期、月毎にチェック 成績不振者への補習の実施 学年末、学年初めの部活動禁止	B B	研究授業ではICTの活用やグループワーク等工夫をされた授業が多かった。授業評価アンケートでも、授業に対する工夫について9割の生徒が工夫してあると感じている。
学力向上	工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得	知識と技術の向上に向け、技能検定や国家資格等に挑戦	ジュニアマイスター認定者数の全国上位校入り(100人以上のジュニアマイスター認定)	各科・各学年が連携し計画的、継続的な指導 朝・放課後・長期休業中を利用した資格検定課外の実施	C	資格検定課外は朝や長期休業を利用し、計画的に行われていた。ジュニアマイスター認定者数(ゴールド20人、シルバー45人、合計65人)は、昨年度より2人増加した。
	専門的な知識と技術の深化「ものづくりは人づくり」	創意工夫をこらしたものづくり	「生徒研究発表会」「ものづくりコンテスト」「マイコンカー」「アイデアロボットコンテスト」等の各種コンテスト入賞 こども科学フェア等の継続・発展 課題研究の充実	大会出場者の徹底指導 科や学年を超えた指導 指導者の技術力向上に向けた研修会・講習会の実施 広報活動や内容の充実	B	ものづくりコンテストは化学分析部門が銀賞、旋盤作業部門が銅賞、家具工芸部門が銅賞、マイコンカー九州大会出場(2人)、アイデアロボットコンテスト決勝リーグ進出、つまようじタワーコンテスト三連覇、生徒研究発表会奨励賞であった。こども科学フェアは今年度も盛況であった。
	キャリア教育の充実と強化	生徒・保護者への的確な進路情報の提供と目的意識の啓発	進路だよりの充実	進路だよりの定期的発行	A	進路だよりを進学と就職に分けて、今年度は合計10回の発行(昨年は7回)をすることができた。
キャリア進路指導教育	高レベルの進路実現(伸ばす教育の実現)	きめ細やかな進路相談と学習指導 生徒の希望に応える進路指導体制の確立	第1希望の就職内定率90%以上 難易度の高い企業、大学等への合格者増	学年毎の啓発活動の実施(学年進路講話等) 保護者向け進路講話の実施 インターンシップ、地場企業研究の実施	A B	今年度は一回目の就職試験内定率が89%となり、昨年度と比べ5%増加であった。進学では国公立大学合格者1人と減少した。年間を通して、1、2年生共に企業講話や就業体験、卒業生講話も開催した。県内企業訪問も実施し、今後の求人につなげる取り組みが出来た。進路部と学年との情報交換に努めることが出来た。年間目標を立てて、各学年毎のきめ細かな指導実践が出来た。就職基礎課外と進学課外、公務員課外を年間通じて実施し、出席率も概ね良好であった。進学希望者には、必要に応じた個人指導も実施できた。企業や学校の積極的な情報収集(企業訪問、学校説明会)に努めた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	社会で必要とされる心構えと基本的生活習慣の確立	・時間、期限、約束、ルールが守られているか ・心のこもった挨拶や言葉遣い、礼儀、マナー、制服の着こなしができてきているか ・情報モラルが身に付いているか	・笑顔で明るい挨拶 ・高校生として相応しい言葉遣い、礼儀、マナーを身につけさせる ・清潔感のある服装、着こなしを身につける ・欠席遅刻をなくす ・情報モラルの育成	・挨拶指導 ・職員による校門指導 ・交通安全や携帯電話教室の実施 ・毎月の服装検査と日常的な指導 ・PTAや地域との連携した生徒指導 ・生徒会活動を通しての生徒指導	B	挨拶指導や職員並びに PTA 合同の校門指導等を含めて、日々の生徒指導を実施してきた。概ねの生徒が快い挨拶を行える。また、時間や期限を守ることについても、遅刻者や未提出物の個別指導等を通して改善されている。携帯安全教室を実施し、機会ある毎の啓発をにより、情報モラル向上を図った。課題としては、携帯電話の使い方が挙げられる。人格形成の途中にある中で多様なトラブルが生じており、保護者と連携しながら更なる取組みが求められる。
	校訓「誠実」と友愛精神の涵養	・誠実な言動ができるか。 ・自他の尊厳と生命を尊重できているか。 ・母校愛が育まれているか	・自他に対し危害や損害を与える行為をしない ・過ちを素直に認め、課題や問題に対して誠実に対応する ・校歌斉唱の充実	・日々の教育活動全般を通して、すべての教職員が、「認め・ほめ・励まし・伸ばす」を念頭に、毅然とした態度で生徒に向き合う ・始終業式や卒業式等における校歌指導を充実させる	B	全職員が日々の生徒指導・教育実践を通して取り組んでいる。いじめ、暴力、暴言等については、毅然とした態度で生徒の反省を促し、各々のケースに合わせて、適切に指導を実施した。式典における校歌斉唱においては、大きな声で歌えている。
	問題行動や悩みを持つ生徒への対応	・不適応行動を起こした生徒や不登校生徒の指導や支援	・課題を抱えた生徒への組織的な支援体制の確立 ・特別指導の充実	・組織的な指導を実践する ・特別指導計画の作成 ・SSWやSC、教育相談、特別支援教育の活用を組織的に進める	B	課題を抱えた生徒や特別指導対象生徒に対して、SSWやSCとの連携を含めて、組織的な対応に努めた。必要に応じてケース会議を開催し生徒理解を深めながら具体的な対応を検討した。
人権教育の推進	人権教育の充実	全職員の実践力向上	・年1回以上の校外研修会参加 ・学期に1回の校内研修会を実施 ・体罰や暴言等の生徒指導防止	・校外研修日程を周知徹底 ・人権教育推進委員会で企画し開催する ・全職員にコーチング研修を実施する	B	全職員が1回以上の校外研修に参加することができた。職員研修では人権同和問題、ハンセン病、水俣病、いじめ防止、情報モラル、体罰防止、ICT活用、セクハラ・パワハラ防止、男女共同参画社会、人権を尊重し支え合う集団作りの話し合い、コーチングを実施した。
	全ての教育活動を活用した人権意識	人権教育の充実	・人権教育に係る、年間計画の作成 ・人権に係る講演会を年1回、実施する	・人権教育推進委員会でLHR指導案の原案を作成する ・人権教育推進委員会で企画立案	B	担当者の作成した指導案で学年会を中心に事前研修を行ない、より良いものに改善できた。1学年においてDV防止講演会を実施し、他学年では人権推進DVDの視聴を実施した。
	命を大切にすることを育む指導	自他を尊重し、お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか	・いじめアンケートで、いじめや暴力を受けたことがある生徒の数を0にする	・コミュニケーションスキルアップトレーニングを継続する。 ・命をテーマにした講演会を学期に1回行う	B	いじめは0件にはならなかったが、継続的な呼びかけや指導を行った。コミュニケーションスキルアップトレーニングは、各学年3回実施ができた。講演会はいじめ防止、薬物乱用防止、携帯安全を計画し、実施することができた。
いじめの防止等	いじめの根絶	・いじめを生まない集団の雰囲気が作られているか ・いじめの初期段階において、早期発見がなされたか ・いじめが生じた際、適切に対応できたか	・生徒会活動等を通して、いじめを生まない雰囲気をつくる。 ・生徒と教師の信頼関係をつくり、生徒がいつでも相談できる環境を整える ・いじめが起きた際、適切に対応する	・標語やポスターの募集、いじめの撲滅宣言を実施 ・日頃から「認め・ほめ・励まし・伸ばす」教育を実践し、生徒の人権に配慮した教育実践 ・本校いじめ防止基本方針に則りいじめ根絶に対する取り組みを実施 ・重大事態への対応マニュアルの整備	C	いじめ防止基本方針に則り、本校いじめ防止等対策委員会を中心として、各取組を実施した。人権教育や生徒会活動と併せて、いじめ防止のための取組みを実施すると共に、アンケートや日々の生徒観察を通して、いじめの早期発見に務めた。今年度、12件(12人)のいじめを認知している。うち1件は暴力を伴ったもので特別指導事案として対応し解決を図った。その他の事案についても全て解決したが、継続した見守りが2件ある。1学期に重大事態対応マニュアルを作成し、関係部・科に配置した。
	開かれた学校づくりの充実	教育内容の魅力化と中学生、保護者、地域社会への教育成果の周知徹底	ものづくり講習会や開放講座等の実施における実施時期、参加者数の改善充実を図る 様々な教育成果や学校行事の実施状況を年2回中学校等に紹介する	中学生体験入学の実施 学科毎のものづくり講座の実施 ホームページでの参加募集など、広報活動の工夫を図る 学校情報の広報誌制作 ホームページの充実 地域の要望にこたえるオンライン製品の製作	A	八代工活性化対策本部の取り組みで、広報誌、オリジナル団扇、宣伝看板、ものづくり講習会、学校行事等を充実させることができた。体験入学参加者も昨年度より75人増えた。HPの画面デザインも少しずつ充実してきている。
特色ある学校づくり	部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成	・朝は課外、放課後は部活動に取り組むなどメリハリのある日々の学校生活。 ・基礎基本を大切に、当たり前なことを当たり前実践する。	各種コンテスト入賞 部活動各種大会の入賞(ベスト8以上の増加を目指す) 生徒達のやる気の喚起	顧問と生徒・保護者との連携(信頼と協力)による指導強化 顧問の指導力向上(外部研修含む) 大会内容や入賞結果の報告(学校ホームページの活用)	B	つまようじタワーコンテスト三連覇やアイデアロボットコンテストでは一定の成果を残したが、ものづくりコンテストや生徒研究発表会で今以上の成果を目指し指導徹底を図りたい。陸上部2人、空手道部1人、弓道部1人が全国大会に出場。陸上部、空手道部、水泳部、弓道部、コンピュータ部が九州大会出場を果たした。全国高校総合文化祭吟詠剣詩舞部門に1人出場した。
	校内環境整備の充実	整理整頓の意義と意識を高める 教室、実習棟、部室等の管理意識の高揚 教職員が率先垂範し、環境に対する責任ある態度	各学期毎の校内美化週間を実施する 最低年1回の安全点検を実施する 学校版環境ISOに取り組む	生徒会、管理部主催による美化コンクールの実施 職員による危険箇所等の安全点検の実施 省資源、リサイクルの徹底 使用電力と水道の細やかな節減 排出ごみの削減、ごみ分別の徹底	B	美化コンクールにおいて、クラス毎の取組評価を示すことで美化に対する意識が向上した。 定期的に安全点検を実施しているが、安全点検に対する意識の差が見られる。 学校全体では可燃物量が昨年度に比べ、少し減少したが、部署によっては増加している。過去データを検証し、今後の取組みを検討する。ゴミの分別を徹底することで、職員や生徒の環境保全の意識を高めることができた。
	心身ともに健康な学校生活の実現	健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康	心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健(病予防対策等)啓発	生徒、保護者、学校の連携の徹底 外部講師による講話の実施 保健委員会の開催 生徒情報の共有化を図る 毎月保健だよりの発行	B	心身の健康に悩みを持つ生徒をSCやSSWへ保健室を介してつなげた。性教育講演会や薬物乱用防止講演会を実施。学校保健委員会を開催することができた。ケース会議等を通して共有を図った。毎月保健だよりを発行することができた。
特別支援教育	特別支援教育の充実	個に応じた指導の充実	必要な生徒の個別の教育支援計画、指導計画を作成し、適切な支援を実践する	学科、学年を中心としながら全職員の共通理解のもとで支援を行う 家庭と学校との連携強化 療育機関との連携	B	支援の必要な生徒の情報は学年会や教科会等で担任からなされている。全職員への周知は一部生徒しかできておらず、支援実践には全職員の共通理解が必要である。支援対象生徒の個別の支援計画や指導計画作成は進んでいる。
	発達障がいや悩みのある生徒の情報の共有化と実践	月1回は科会や学年会で情報交換会を実施する 全職員による適切な対応策を徹底研究	生徒理解研修会の実施 SSWやSC等の活用及び専門家による校内職員研修会を実施する		B	職員への生徒理解研修は、年度初めと2学期前に実施し、情報の共有化は図られた。今年度は本校SCから職員研修で講話「生徒が困難・ストレスに直面した時の対処法教育」を行い、特別支援教育に対する意識高揚できた。